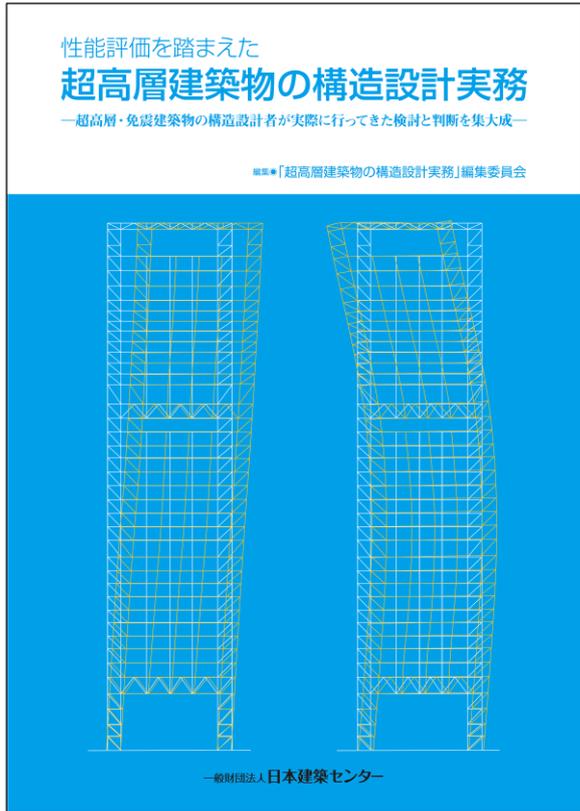


性能評価を踏まえた

超高層建築物の構造設計実務

-超高層・免震建築物の構造設計者が実際に行ってきた検討と判断を集大成-



●改訂の概要

「編集に当たってはルート3のような静的設計部分に関する内容を簡略化し、**時刻歴応答解析に関する内容を充実**させた。具体的には旧版の目次を参考にし、それをリヴァイスする形で2000年以降急増している**制振構造を増強、免震構造を新たに章として追加**した。さらに、2014年4月1日に施行された**特定天井に関する内容を追加**した。また、**長周期地震動に関する技術資料を追加**し耐風設計においても今後予想される**CFD（流体解析）に関する技術資料を追加**するなど、現時点での最新知見をもとに**可能な限り設計例や検討例を更新、追加**した。なお、本タイトルは「超高層建築物」としたが、その工学的な考え方は60m以下の中高層、中低層建築物であっても変わりはないことから、**一般建築物の設計においても十分活用できる**ものと考えている。（本書から抜粋）

発行 一般財団法人日本建築センター
編集 超高層建築物の構造設計実務編集委員会
定価 10,000円+税
体裁 A4判 504頁
発行日 令和元年7月30日
ISBN 978-4-88910-179-9

目次

序章

第1章 耐震設計

- 1.1 方針
- 1.2 時刻歴応答解析に基づく設計

第2章 耐風設計

- 2.1 はじめに
- 2.2 構造骨組の耐風設計
- 2.3 外装材の耐風設計
- 2.4 風洞実験の実例
- 2.5 風時刻歴応答解析と数値流体計算(CFD)を用いた小規模免震建築物の実例

第3章 構造計画上の留意点

- 3.1 はじめに
- 3.2 平面形
- 3.3 立面形
- 3.4 吹抜け
- 3.5 床面の面内せん断力
- 3.6 EXP. Jの間隔および詳細
- 3.7 各部検討項目

第4章 解析

- 4.1 基本的な考え方
- 4.2 静的解析
- 4.3 動的解析

第5章 基礎・地盤

- 5.1 基礎構造の設計
- 5.2 地盤の安定性(液状化)
- 5.3 外力(設計荷重)の設定
- 5.4 直接基礎
- 5.5 杭基礎
- 5.6 パイルド・ラフト基礎
- 5.7 異種基礎
- 5.8 その他

第6章 鉄筋コンクリート造

- 6.1 はじめに
- 6.2 使用材料
- 6.3 柱の設計
- 6.4 梁の設計
- 6.5 耐力壁の設計
- 6.6 柱・梁接合部の設計
- 6.7 継手の設計
- 6.8 プレキャスト材の打継ぎ部の設計

第7章 鉄骨造

- 7.1 はじめに
- 7.2 使用材料
- 7.3 柱の設計
- 7.4 梁の設計
- 7.5 プレースの設計
- 7.6 接合部の設計

第8章 CFT造

- 8.1 はじめに
- 8.2 使用材料および施工を考慮した設計上の留意事項
- 8.3 部材耐力、復元力特性
- 8.4 接合部・継手の設計

第9章 SRC造、その他混合構造

- 9.1 はじめに
- 9.2 使用材料および部材耐力
- 9.3 混合構造

第10章 制振構造

- 10.1 はじめに
- 10.2 設計・解析方針
- 10.3 制振部材の設計
- 10.4 各部の設計

第11章 免震構造

- 11.1 免震構造の定義と免震部材の概要
- 11.2 設計方針
- 11.3 免震部材の設計
- 11.4 各部の設計
- 11.5 検討事例および留意点

第12章 その他

- 12.1 本体架構から突出した部分の設計
- 12.2 非構造部材と建築設備

全国の書店でご注文・お買い求めください

日本建築センター (<https://www.bcj.or.jp>) でも販売します。